



NATURE- PRENEUR AWARD

ネイチャープレナーアワード 2026

募 集 要 項

ネイチャープレナーアワード実行委員会

1 趣旨・目的

自然資本の劣化や生物多様性の損失は、もはや環境分野に限定された課題ではなく、経済・社会・地域の持続可能性そのものを左右する構造的な課題となっています。一方で、ネイチャーポジティブの実現に向けた枠組みや評価手法は発展の途上にあり、何が「正しいアプローチ」であるかが必ずしも確立していない段階にあります。

「ネイチャープレナーアワード」は、こうした不確実性の高い段階において、自然と共に新たな価値を生み出そうとする実践者（ネイチャープレナー）を、最新の学術的知見に基づき評価・顕彰することで、先駆的な取組の方向性を社会に示すことを目的とします。

優れた実践事例を可視化し、共通の知として広く共有することにより、全国各地でのネイチャーポジティブな取組を後押しし、「自然のための行動が事業となり、経済成長の原動力となる社会」の実現を目指します。

2 アワードについて

（１）名称の由来

「ネイチャープレナー」とは、Nature（自然）と Entrepreneur（つくる人）を組み合わせた言葉であり、自然と共に新たな価値を生み出す仕掛け人を指します。本アワードでは、日本全国の地域でネイチャーポジティブな取組を実践するネイチャープレナーを、最新の学術的知見をもつアカデミアの立場から評価します。

（２）対象となる取組

日本全国で実施されている、自然再生を通じて経済的・社会的価値を生み出す取組（ネイチャーポジティブ・アクション）を広く対象とします。長く活動を継続してきた主体だけでなく、近年取組を始めた主体に関しても、今後への期待成果を元に評価の対象とします。

※ 応募時点で現に実施している取組であることを基本とします（詳細は「6 応募資格」を参照）。

（３）賞の構成

本アワードでは、以下の賞を設ける予定です。なお、応募状況や審査結果によって受賞件数は変動する場合があります。

- ・ 総合大賞 ：1～3 件程度
- ・ 分野賞 ：3～5 件程度

3 応募対象・申込条件

- ・ 応募主体：企業、自治体、その他法人（学校法人、NPO 法人、公益法人等）を問わず、ネイチャーポジティブな取組を実施する団体・グループを対象とします。
- ・ 複数団体による共創型の取組の場合は、代表となる主体が 1 件のみ応募してください。
- ・ 審査料：無料
- ・ 企業協賛をいただいた企業について、当該企業を主体とするプロジェクトは、本アワードへの応募資格を有しないものとします。

4 審査方法

審査は、一次審査・二次審査の 2 段階で実施します。

（１）一次審査（書面審査）

日本生態学会、日本農学会、日本水産学会、日本森林学会等の学会員に協力を依頼し、全国の有志のアカデミア会員にボランティアで一次審査員としてご協力いただきます。

※ 審査員は、自身が関与する案件が審査対象となった場合、当該案件の審査を辞退します。

（２）二次審査（最終審査）

一次審査を通過した案件について、実行委員会のコミッティーメンバー 5 名程度による最終審査（ディスカッション方式）を行い、大賞等を決定します。

審査は非公開とし、審査内容や結果に関する個別の問合せには応じられませんので、あらかじめご了承ください。

5 審査基準

新しく取組を始めた主体も、長年取組を継続してきた主体も等しく評価できるよう、アプローチおよび実施体制の妥当性を中心的な評価軸とし、その他の評価項目は加点要素として扱います。

（１）一次審査：基本項目（最大 10 点）

次の 2 項目について、審査員が各 0～5 点を配点し、合算した点数を一次審査の総合点とします。

① 理工学的妥当性 — 課題に対して妥当なアプローチになっているか

- 生態系・生物多様性に対してポジティブな成果をもたらす設計か
- 目的に対し適切な空間スケールで実施されているか（局所的すぎない／過大でない）
- 措置（緑化・保全・再生・調査など）の科学的・技術的妥当性があるか
- モニタリング・評価手法・順応的管理が適切に設計されているか

- 学術的知見・既往研究との整合性があるか

② 社会的妥当性 — 体制・資金面・運用の仕組みが持続可能かつ公正か

- 実施体制（組織・パートナーシップ・ガバナンス）が明確で強固か
- 財源・資金調達の仕組みが持続的に設計されているか
- 地域社会・住民・関係者との協働体制があるか
- 社会的包摂性や文化的適合性が担保されているか
- 社会全体や地域住民に向けた広がりをつくる戦略があるか

（2）二次審査：加点要素（最大＋9点）

一次審査通過案件について、一次審査で出てきた観点に加えて次の3項目を各0～3点でコミッティーが採点し、ディスカッションのうえ最優秀賞を決定します。

① 波及効果・展開性

- 国際潮流（ネイチャーポジティブ／SDGs／環境正義等）との接続性が明確である
- 他の団体・行政・企業が参考にできるモデル性がある

② 社会的インパクト

- 人々の意識変容・行動変容につながっている
- メディア発信・教育・政策など社会的な広がりを生んでいる
- 自然領域にとどまらない社会課題の解決に展開している

③ 統合性・革新性

- 既存の延長ではなく、独自の発想・仕組みを提示している
- 複数分野（生態・経済・文化・地域振興）を統合し、相乗効果を生み出している

6 応募資格

次のすべての要件を満たす必要があります。

- ・ 生物多様性および自然資本の保全・回復・持続可能な利用につながる取組を、日本国内で現に実施していること。
- ・ 応募内容に虚偽がなく、応募要件を満たしていることを確認できること。
- ・ 法令及び公序良俗に反する行為、又はそれらを助長する行為を行っていないこと。
- ・ 暴力団等反社会的勢力に該当せず、また、これらと関係を有していないこと。
- ・ 政治、選挙運動又は宗教活動を主たる目的とする団体でないこと。
- ・ 企業協賛をいただいた企業を主体とするプロジェクトでないこと（「3 応募対象・申込条件」参照）。

7 応募方法・応募受付期間

(1) 応募方法

所定のオンラインエントリーフォームより、必要事項をご入力の上お申込みください。

- ・ 団体名・取組名称・代表者氏名・連絡先
- ・ 取組概要（実行委員会が指定する応募フォーマット活用）
- ・ 取組の概要が分かる写真・図、フロー等（3点程度）
- ・ 推薦書（学術有識者 推奨）500字以内

(2) 応募受付期間

応募期間	2026年8月3日（月）～2026年9月18日（金）18:00 必着
------	------------------------------------

8 スケジュール

応募期間	2026年8月3日（月）～9月18日（金）18:00
一次審査	2026年9月28日（月）～10月9日（金）
二次審査	2026年10月19日（月）～10月28日（水）
結果連絡	2026年10月下旬
授賞式	2026年11月27日（金）予定

審査期間中、事務局から事実確認のご連絡をさせていただく場合があります。ご了承下さい。

9 表彰・応募メリット

一次審査・二次審査を経て、最優秀賞を決定し、授賞式にて表彰いたします。

（賞数は変動の可能性があります）

その他にも応募いただいた取組には次のメリットがあります。

- ・ アカデミアからのフィードバックコメント：応募いただいた全案件に対し、アカデミアからのフィードバックコメントをお送りします。現在の活動の客観的評価や今後の指針検討にご活用いただけます。
- ・ 授賞式への無料ご招待：全国のネイチャーポジティブな社会づくりを目指す企業・団体・地域・アカデミアとのネットワーキングの機会を提供します。

- ・ NATURE PRENEUR AWARDS マークの活用：二次審査に進んだファイナリスト以上の取組は、広報活動において受賞・選出マークを使用できます。

1 0 主催・後援・協力

主催	ネイチャープレナーアワード実行委員会（一般財団法人ネイチャープレナー・ジャパン、株式会社大広）
後援	JBON（日本生物多様性観測ネットワーク）
協力（予定）	日本生態学会、日本森林学会、日本水産学会、応用生態工学会、農業農村工学会（一次審査員の参加の呼びかけ）

1 1 その他

（１）応募の無効及び受賞の取消し

- ・ 応募内容に虚偽の記載がある場合や、応募要件を満たしていることを確認できない場合は、応募が無効となります。
- ・ 受賞後に応募が無効と判明した場合、その他実行委員会が受賞者として不適切と判断した場合は、受賞を取り消します。

（２）提出情報の取扱い

本事業を円滑に運営するため、提出いただいた情報は、必要に応じて審査員及び業務委託先に提供することがあります。本事業の実施運営以外の目的で第三者に提供することはありません。

（３）個人情報の取扱い

ご提出いただく個人情報は、本事業に関する事務連絡、審査及び運営管理の目的にのみ利用し、関連法令に基づき適切に取り扱います。

1 2 問合せ先

ネイチャープレナーアワード実行委員会 事務局

MAIL：info@np-award.jp

※ 本書記載の内容は、実施準備の進行に応じて変更となる場合があります。最新情報は別途公開する公式サイトをご確認ください。